

きほく優愛の里

贈呈理由

複合施設において、環境を配慮した蓄熱システムなどの採用により、省エネルギーを実現



きほく優愛の里



児童ユニット

で隣接していた施設が複合施設に生まれ変わったことで、高齢者と子どもが家族のように触れ合い、家庭的な生活の場になることが期待されている。また、地域交流スペースでは、ギャラリーや趣味の教室として地域で有効活用されることが望まれる。

施設職員においては日頃から人間味あふれるおつきあいを心掛け、入所者をはじめ地元の人々から愛着を持って親しまれる施設運営を目指し、その名の通り、やさしさと愛に満ちた理想郷に向かって歩んでいく。

乳幼児から高齢者までを受け入れる県内初の複合施設

宇和島地区広域事務組合の施設「きほく優愛(ゆあ)の里」は、養護老人ホーム、児童養護施設、乳児院の老朽化にともない、乳幼児から高齢者まで年代の異なる3つの養護関連施設を統合した複合施設として、愛媛県で初めて鬼北町に建設された。

鬼北町は愛媛県南西部に位置し、町名の「鬼北(きほく)」は、鬼ヶ城山系の北側に位置することに由来しており、町名に「鬼」の文字が使用されている自治体は全国で唯一である。

また、「日本最後の清流」と呼ばれる四万十川の支流にあたる広見川、四方を囲む標高1,000m級の山々など、自然豊かなまちである。

安全面や運用コストに配慮し、環境にやさしい設備を採用

新施設の建設にあたっては、地域の深い理解と温かな支援のある恵まれた環境で、健康で明るく心豊かな楽しい生活が送れるように、養護老人ホームの入所者や児童養護施設の入所児童

のプライバシーに配慮して施設の居室を個室にした。

また、施設の設備には、乳幼児から高齢者が安全かつ安心して生活できる環境整備に加え、省エネルギー・省コスト・維持管理面に優れたオール電化仕様とした。冷暖房には電気式空調に加え、児童養護施設と乳児院にはヒートポンプ式温水床暖房を導入し、CO₂削減とランニングコスト低減を実現させた。

また、給湯は環境にやさしい業務用エコキュートを、屋内には電気温水器を必要な給湯個所ごとに個別に設置し、即湯性を考えた配置とした。さらに、電化厨房機器の導入により、入所者に快適な生活環境を提供できるよう衛生管理にも配慮した。

当組合の基本理念である「やさしくゆったり 寄り添って」を念頭に、これま



乳児院ユニット



業務用エコキュート・ヒートポンプ式温水床暖房

きほく優愛の里

所在地：愛媛県北宇和郡鬼北町大字近永455-10
 建築設計：新企画設計㈱
 建築施工：愛媛建設・松野建設共同企業体
 設備設計：新企画設計㈱
 設備施工：四電工・宇和島燃焼器共同企業体
 電気施工：株式会社小関電気
 延床面積：3,954㎡
 竣工：2019年1月新設

設備概要

ヒートポンプ式温水床暖房7kW×1台(三菱電機)
 敷設面積41.0㎡
 ヒートポンプ式温水床暖房12kW×2台(三菱電機)
 敷設面積128.15㎡
 業務用エコキュート6kW×2台 貯湯槽0.92㎡
 15kW×3台 貯湯槽1.68㎡
 15kW×2台 貯湯槽2.24㎡
 15kW×5台 貯湯槽8.40㎡
 (日立グローバルライフソリューションズ)
 電気温水器 150L×1台、200L×2台、370L×2台
 (日立グローバルライフソリューションズ)



ヒートポンプ給湯



床暖房



電気温水器